

令和3 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和4年1月10日

法人名

園名

吾田学園 しあわせ小規模保育施設

油津オアシスこども園

まとめ

全体平均

3.98

第2章第2節 乳児期の園児の保育	ひとり一人の幼児に笑顔で優しく語りかけ生理的・心理的欲求に丁寧に応じることで芽生える愛着や絆は乳幼児期の健やかな成長に繋がっていることに改めて気づくことができた。保育者の優しいまなざしや語りかけ仕草なども環境の一部であることを意識し、昼間の家庭として穏やかに安心して過ごせる環境づくりと信頼関係を深めていけるような関わり方ができるよう力を入れていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	幼児期は生活が遊びであり遊びが生活であるように常に人との関わりの中で過ごしているため、ひとり一人の成長や発達、また、思いや欲求に違いがあることを認識した細やかな関わり方が大切であることが見えてきた。今後の課題として、幼児が安心して思いを伝え自由な表現ができ、喜び合い思いを共感出来るよう人的・空間的環境を整えることに力を入れ、子どもが主体の生活であるか見直しをしていきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	該当無し
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	ひとり一人の育ちに丁寧に関わることで、思いをうまく表現できないことも仕草や表情でその思いを汲み取ることもできるのだと痛感した。これからは今まで以上に家庭との連携や保護者との信頼関係を大切に、心で向き合い乳児期の24時間を視野に入れ安心して過ごせる環境づくりに努めたい。
第3章 健康及び安全	ひとり一人の健康状態を把握しいつもと違う様子を敏感に対応するためには、家庭との連携、職員間の情報の共有が必要だと思う。保護者には一日の園での様子を丁寧に伝え家庭での様子等の情報交換をしている。感染症やアレルギー疾患のある園児に対しての個別対応にも力を入れていきたい。また災害対策にもつながるため、今後も商店街や地域の方とコミュニケーションを図りスムーズに連携がとれるよう日常の挨拶や会話などに努めたい。
第4章 子育ての支援	保護者の思いを尊重し気持ちに寄り添いながら送迎時の会話の時間を大切にしている。一日の活動の様子を週案や写真で掲示しエピソードなどを具体的に伝えることで子育ての喜びに繋がるよう努めている。今後も、ひとり一人の成長を見守りながら保護者と共に考え学んでいく姿勢をもち、不安や悩みにも寄り添えるよう、話しやすい環境作りを工夫していこうと思う。
第5章 職員の資質向上	幼児が伸びやかに日々の生活を楽しむ為にはワクワク出来る遊びの環境づくりが必要であると痛感した。それには保育者も日々学び続ける姿勢やプロとしての意識を持ち続けるという自覚が大切である。県内外や海外にまでも研修に参加し学べる恵まれた環境に、更に学びを深めていけるよう努め保育者間の意識と質の向上に努めていきたい。
総合	自己評価を通して自分自身の保育の質や小規模保育施設ならではの特性が見えてきた。集計データ表(グラフ)が数値化され今後の課題が明確になったことで改善点に気づくことができた。「健康・安全」の中でも特に災害時の子どもの受け渡しなど具体的に内容を見直し地域との繋がりが職員との連携が大切であると痛感した。また小規模保育施設ならではの特性を生かした活動や専門性を生かした子育て支援が充実していけるよう環境面にも更に力を入れていきたい。「笑顔で優しく しっかり抱いて ゆっくりおろして 歩かせよ」の保育理念を常に心にとめ、保育の質の向上こそがこどもの最善の利益に繋がるということ意識し努力していきたいと思う。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.07
「3歳未満児保育」	32	4.00
「3歳以上児保育」	0	#DIV/0!
「教育保育の配慮事項」	16	3.94
「健康・安全」	28	3.89
「子育ての支援」	13	4.08
「職員の資質向上」	7	4.00
計	111	3.98

データグラフ

